

卓 話 『2014-15年度ロータリー財団月間例会卓話』

卓話者 国際ロータリー第2630地区
ロータリー財団ポリオプラス小委員会
委員 大橋 哲也（岐阜中 RC）様



1. ロータリー財団とは
 - 標 語 「世界でよいことをしよう」
(Doing Good in the world)
 - 使 命 「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」
 - 提唱者 アーチ・クラフ（1917年 国際ロータリー会長）
「世界でよいことをするために、ロータリーに基金を作ろう」
2. ロータリー財団寄付の種類
 - 年次基金寄付
Every Rotarian Every Year (EREY)
日本では「あなたも毎年100ドルを」3年周期で投資運用され、その後50%は国際財団活動資金(WF)としてロータリー財団へ、50%は地区財団活動資金(DDF)として恒久基金の運用益と共に地区へ
 - 恒久基金寄付
ロータリー財団が寄付された元本には手を付けず投資運用し、その収益を活動資金として分配
 - 使途指定寄付
使い道を指定して寄付（たとえばポリオ）
3. ロータリー財団補助金の種類
 - 地区補助金
3年間投資運用され地区に戻った地区財団活動資金(DDF)の50%を地区の裁量でクラブまたは地区が行う事業に使用

グローバル補助金

地区財団活動資金（DDF）の残りの50%を6項目の重点分野に当てはまる事業に使用

1 平和と紛争予防／紛争解決 2 疾病予防と治療 3 水と衛生

4 母子の健康 5 基本的教育と識字率向上 6 経済と地域社会の発展

パッケージ・グラント

ロータリー財団が選んだ協力組織と提携して活動する事業に使用

4. ロータリー財団補助金を使う

地区補助金の申請スケジュール

次年度補助金使用事業計画（本年度7～12月）→

次年度補助金使用について地区と覚書（MOU）調印（本年度11月）→

次年度事業補助金申請（本年度12月～1月）→

次年度事業補助金使用可否（本年度3月頃）※少し遅れることがあります。

※地区補助金による奨学生募集の可能性は本年度3月頃に明確化

※グローバル補助金については、いつでも申請可

5. ロータリー財団補助金を使った活動（別紙参照）

6. ロータリー財団補助金を使ったクラブ

広報と他のクラブへの使用呼び掛け

7. ポールハリス・ソサエティ

ロータリー財団月間卓話（R財団と補助金説明他）

○ロータリー財団とは

標語は、「世界でよいことをしよう」（Doing good in the world）。その使命は「ロータリアンが、人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」です。

このロータリー財団は、1917年6人目RI会長のアーチ・クランフが「世界でよいことをするために、ロータリーに基金を作ろう」と提案して始まりました。最初26ドル50セントで始まったR財団基金は約100年間で資産残高8億1,370万ドル超に大きく成長しました。ところが同時に様々な問題を抱えるようになりました。

特に10数年前からR財団は相当な数のマッチング・グラントを処理するようになりました。これはロータリアンがR財団の人道的プログラムの価値を大きく評価するようになったからです。しかし増えた提出書類の処理に多大な時間と経費を費やすようになりました。R財団は会計・コンサルティングを専門とする会社に調査を依頼。結果は今のプログラムのモデルでは長期的な成功が望めないとの結論に達しました。これを受けR財団管理委員会は未来の夢委員会をつくりプロジェクトの見直しに取掛りました。これが「未来の夢計画」（フューチャー・ビジョン）の始まりでした。

「未来の夢計画」の目的は、プログラムと運営を簡素化すること、最大の成果が期待できるロータリアンの奉仕活動に焦点を絞ること、世界的目標と地元の目標の両方を果たすためのプログラムを提供すること、意思決定権を今まで以上に地区に移行することで、地区レベルとクラブレベルでロータリー財団が自分たちのものであるという自覚を高めること、ロータリーの公共イメージを高めることの5項目です。

石垣ガバナーは、地区目標を「耳を傾け、ロータリーに活力を」とされ、「寛容を原点

に、ロータリーの理念に基づき様々なことに耳を傾け、一人一人の力でロータリーの発展と、延いては社会への貢献をしよう」と言ってみえます、

○ロータリー財団寄付の種類

ロータリー財団への寄付は、年次基金、恒久基金、用途指定の3種類に分けられます。

年次基金寄付は、EREY (Every Rotarian Every Year)、日本では「毎年あなたも100ドルを」と言われる寄付です。(当地区では昨年度から毎年の目標額を150ドルにとお願いしています。)この寄付は3年周期で投資運用されます。3年後、寄付を全ロータリークラブが参加できるロータリー財団の活動のために財団が活用する国際財団活動資金(WF)とクラブまたは地区が財団の補助金及び活動に参加するための地区活動資金(DDF)に50%ずつ分けられます。つまり今年度年次基金寄付としての寄付金額の50%が、恒久基金の運用益と一緒に3年後に地区に戻ってきます。

恒久基金寄付は、国際ロータリーのロータリー財団が寄付された元本には手を付けずに投資運用して、その収益を活動資金として分配しています。

用途指定寄付は、使い道を指定して寄付します。例えば今のポリオ撲滅に対する寄付がそれに当たります。

○ロータリー財団補助金の種類

補助金の種類とその内容については、補助金は、地区補助金(DG)、グローバル補助金(GG)、パッケージ・グラント(PG)の3本立てです。

地区補助金は、該当する寄付年度の地区財団活動資金(DDF)の50%を地区の裁量でクラブまたは地区が行う以下の事業に使えるものです。

人道的プロジェクト：地元や海外の奉仕プロジェクト・奉仕のための渡航・災害救援活動

職業研修チーム：1 共同提唱や海外クラブ・地区との協力といった要件が無い
2 チームの人数や研修期間に制限がない。
3 チームは研修を提供することも、受けることもできる。

奨学金：1 レベルは(高校・大学・大学院)・期間・場所(国内あるいは海外)・専攻分野に関する制限がない
2 奨学金の額に制限がない

※地区では地区補助金について独自の基準と管理運営手続きが必要として地区補助金支給基準が設定されています。

グローバル補助金は、残りの50%を重点分野6項目(1 平和と紛争予防/紛争解決、2 疾病予防と治療、3 水と衛生、4 母子の健康、5 基本的教育と識字率向上、6 経済と地域社会の発展)に当てはまる事業に使えるものです。

パッケージ・グラントはR財団が選んだ協力組織と提携して活動する事業に使われるものです。

○ロータリー財団補助金を使うには

地区内クラブがよく使う地区補助金の申請スケジュールは、例えば2015~2016年度事業を行う場合、2014~2015年度の10~11月に覚書(MOU)を地区と交わし、12~1月に事業を申請しなければなりません。このように前の年度からの動きとなるので計画立てていかなければなりません。グローバル補助金はいつでも申請できます。

覚書(MOU)はロータリー財団補助金使用事業計画が無いクラブでも交わしておくことが大切です。

○ロータリー財団補助金を使った活動には
別紙参照

○ロータリー財団補助金を使ったクラブの行うこととは

ロータリー財団補助金を使った事業を行ったクラブは、積極的に事業の成果やロータリー財団補助金を使って出来たことを広報してください。未だロータリー財団補助金を使ったことの無いクラブがこの補助金を使ってみようとして欲しいのです。またロータリー以外の方々から、「このようなことに使えないだろうか」と提案があるかもしれません。

ロータリー財団は、せっかく皆さんからいただいた寄付を少しでも多く有効に使われることを願っています。

○PHS（ポールハリス・ソサエティ）へのお誘い

本年度からロータリー財団の公式プログラムになりましたPHS（ポールハリス・ソサエティ）への参加をお願いします。これはEREY（毎年100ドルとか150ドル、いやいや200ドルと言っていますが）は既にロータリアンとしては当たり前で、毎年1,000ドル寄付するプログラムです。実は毎年1,000ドル寄付いただく方は全体の5%ですが、その5%の寄付が年次寄付の35%に当たっています。この財源は「世界で良いことをしよう」というロータリー財団の目的達成に大きな貢献をしています。今後、機会あるたびにPHS会員を讃える催しは増えると思われれます。例えば地区大会でPHS会員には特別な会合が持たれるなどです。私本年度、渡邊R財団委員長の薦めで加賀ガバナーよりPHSコーディネーターに就任しました。このソサエティにお入りいただきますとPHSの特別なピンと認証状が届きます。年間1,000ドルの支払にはいろいろな方法があります。ぜひお入りいただきたいと思ひます。お問合せや詳しい入会方法につきましては私に連絡をいただければ幸いです。